



VOL. 39

2015・春号

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課

(〒930-8510 新桜町7-38)

☎443-2051 FAX443-2176

✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

特集 「共に生きる」とは？「富山型デイサービス」に見る男女共同参画

少子高齢化が進み、“老老介護”などの問題も深刻になる中で、全国から注目を集める「富山型デイサービス」。今回は、NPO法人「にぎやか」理事長の阪井由佳子さんに、福祉・介護の現場について男女共同参画の視点からお話を伺いました。

「富山型デイサービス」とは…年齢や障害の有無に関わらず、共に過ごすデイサービス。改修した民家など小規模な建物を使用することで利用者は自宅にいる感覚で過ごせ、自分らしく生活することができる。また、スタッフと利用者が密な関係を築くことができ、一人一人に目が届くので、利用者のニーズにも応えやすい。現在は県内に92カ所ある。

富山型デイサービス「にぎやか」とは

赤ちゃんからお年寄りまで、障害の有無にかかわらず誰でも利用できる施設です。小学生の利用も多く、曜日や時間帯によってさまざまな利用者の交流が生まれます。午前中はおしゃべりを楽しんだりしながら気ままに過ごし、昼食後はみんなで片付けや掃除など、それぞれが自分にできることをしています。利用者スタッフが“家族”のように生活を共にしています。

福祉・介護の現場で男女共同参画について思うことは

「にぎやか」には利用者、スタッフ、ボランティアといった垣根も、スタッフが「世話をしている」という意識もありません。みんながありのまま、お互いを認め合い過ごしています。例えば、若い男性スタッフより、ベテランの女性スタッフの方がこなせる仕事量は多いかもしれませんが、しかし、「若い男性スタッフには何でも頼みやすい。彼がいてくれるだけで落ち着く」という利用者も多く、どのスタッフも同じように周りから必要とされています。

性別や立場に関わらず、お互いを認め合い役割の違いを分かった上で、一人一人が自分の役割を果たすことが大切だと思います。

今後、福祉・介護の現場で必要なことは

最近、「自分の居場所がない」と考えている人の利用が増えてきました。「にぎやか」ではコーヒーの販売や施設見学者への案内などを利用者が主体となって行う「チームむら」というグループを立ち上げました。グループでは現在、「さをり」という織物の製作や販売も行っています。利用者はこの活動を通して自分の役割と責任を果たし、収入を得ることで自信をつけ成長しています。このように利用者も自分の役割を持ち、やりがいをもつことが大切だと感じます。

さまざまな福祉制度が変わっていく中で、「人と人との助け合い」という原点を第一に、時代や風潮に流されずに、障害や年齢を問わず誰もが安心して暮らせるよう、お互いに支え合うことが大切だと思っています。

阪井由佳子さん

理学療法士として老人福祉施設に勤務するも施設介護に限界を感じ退職。息子が富山型デイサービス「このゆびと〜まれ」を利用していたこともあり、その理念に賛同し、平成9年に自宅を開放して「にぎやか」を始める。



印象に残っているエピソード

高齢の夫婦と息子さんの3人で利用されているご家族ですが、家族だけでは話が煮詰まってしまうことがありました。それが、「にぎやか」に来ると第三者が入ることで笑い話に終わることがあるようです。

家族間のトラブルもオープンにすることで、その人の「ありのまま」を受け入れることができ、ストレスが軽減するのではないかと感じています。



「にぎやか」の様子。赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年代の方が利用している。



レポート
REPORT

男女共同参画とやま市民フェスティバル 2014

平成26年11月16日に「男女共同参画とやま市民フェスティバル2014」が、とやま自遊館で開催されました。あいのかぜ編集委員がお伝えします。

基調講演／フィンランドのイクメン事情



ミッコ・コイヴマーさん

駐日フィンランド大使館の報道・文化担当参事官ミッコ・コイヴマーさんから基調講演がありました。

フィンランドでは、子どもを保育園に通わせる権利が守られていることや、男性の育児休暇が8割も取得されていることなど、女性の社会進出を支える上での環境が整っていることが改めて理解できました。自身も育児休暇を取得され、「一日中、1人での育児は大変。妻や両親をさらに尊敬するようになりました」と語るミッコさん。その体験談からフィンランドにおける男性側の男女共同参画意識の高さも伝わってきました。

対談／ミッコ・コイヴマーさん×森 雅志(富山市長)

森 市長／講演中の「父親1人だけで育児をする期間がためになった」という点が、一番のポイントだと思います。私も娘達が幼い頃、1人で育児をした経験がありました。本当に大変でしたが、子育てに対する考え方や取り組み方が変わりました。その後、夫婦で分担しながら家事や育児をすることができましたし、その経験が今も生きています。

ミッコさん／私も3人の子がいますが、特に子育てにおいて心掛けていることは、子どもたちに自信を持たせることです。そのためどう行動するかは、なかなか難しいことですが、家庭では、何事も前向きに捉え、家族に愛情が伝わるよう接しています。将来、子どもたちが大人になってから、自信を持って人生を送れるようになればと思います。

ミッコさん／フィンランドが「幸福の国」と呼ばれる理由の一つとして、仕事と私生活の調和、いわゆる「ワーク・ライフ・バランス」があると思います。日本人は、朝から晩まで仕事に全力を注ぐという印象を強く受けますが、フィンランド人は、自由な時間を本当に大切にします。

森 市長／今の若い世代をみると、「モノ」に対する執着があまりないように感じます。自動車や家電製品など、物が溢れかえる現代、物を買うために働くという考え方より、収入が少なくても自由な時間があって毎日の生活を楽しむ「コト」を大切にしているようにも感じます。これは、まさにヨーロッパ型のライフスタイルであり、今後日本もこうした成熟した社会に進むのだらうと思います。そういったスタイルを支えるため、富山市としても、子育て世代が将来的に安心して暮らせるよう不足している面は改善し、充実させていきたいと思っています。



対談するミッコさんと森市長

たちなみえみライブ

独特の世界観をアコースティックギターの音色に合わせて歌う、たちなみえみさん(シンガーソングライター)のライブが行われました。森や動物などの自然をモチーフにしたオリジナル曲が披露されました。語りかけるようなやさしい歌声が、来場者を魅了していました。



たちなみえみさん

基調講演・対談をととして

税制や社会保障など日本と違う面は多くありますが、それ以上に夫婦が互いに尊敬し合い、そして、家族と過ごす時間が尊いという考え方が「幸福の国」フィンランドを支えていると感じました。日本での「イクメン」「カジダン」が一時のブームで終わらずに、個々の生活の幸福度に結びついてほしいと思います。



男女共同参画推進センターからのお知らせ

男女共同参画推進センター(CiC 3階:新富町一丁目)
☎433-1760

各種相談を行っています

- ◎ DV(夫・パートナーからの暴力)相談(電話・来所)
DV 相談専用電話 ☎433-2210
※来所相談については、電話予約をお願いします。
- ◎弁護士による夫婦・男女に関する法律相談
- ◎女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

相談日程は毎月の
広報とやま20日号
をご覧ください。

男女共同参画講座を開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。
詳細は、広報とやまに随時掲載します。
気軽に参加してください。

男女共同参画社会づくり 作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、271点の応募がありました。応募された皆さん、ありがとうございました。入賞された方と、最優秀作品を紹介します。(平成26年11月16日に開催した「男女共同参画とやま市民フェスティバル2014」で、表彰式を行いました)

【最優秀賞】 くまの みどり 熊野 碧さん(片山学園中学校3年)	【佳作】 おしだ ひろと 押田 皓人さん(三成中学校2年)	まるやま かおり 丸山 薫さん(山室中学校3年)
【優秀賞】 うちだ りくと 内田 陸斗さん(和合中学校1年)	かなやま ひより 金山 日和さん(新庄中学校2年)	みずおち たくみ 水落 巧さん(新庄中学校2年)
おくだ しゅん 奥田 駿さん(片山学園中学校2年)	こもり 小森 ゆりこさん(芝園中学校2年)	みちしたはる 香 道下 晴輝さん(芝園中学校2年)
かまた ゆい 鎌田 結衣さん(北部中学校1年)	すみたにりょう た 炭谷 諒太さん(北部中学校3年)	よし だ りゅうせい 吉田 竜成さん(北部中学校3年)
なから ゆう 香 中村 祐貴さん(堀川中学校3年)	つか だ ち はる 塚田 千晴さん(片山学園中学校1年)	わたなべ み と 渡辺 南斗さん(片山学園中学校1年)



「ありのままで～ Let it go IN 男女共同参画社会～」

片山学園中学校3年 熊野 碧

私は今まで、性別のことで差別を感じたことがあまりなかったのですが、男女差別と聞いても実感が湧かなかった。そこで、母に子供の頃に男女差別を感じたことがあるかと聞いてみた。学校生活の中で差別なんてないだろうと思っていたが、返ってきた答えは意外な言葉だった。

母によると、母の子供の頃は生徒会長や学級委員長は男子しかなく、女子は副会長や副委員長になると決まっていたというのだ。それを聞いて私はとても驚いた。私の学校では、そんなことは考えられない。女子だからという理由だけで制限されることがあるという時代を思いめぐらせてみたが、私には全く想像できなかった。今は、昔より男女平等が浸透してきているのだと安心すると同時に、私たちがもっと性別にとらわれない考え方を広げていくべきだと思った。

また、昔の女性には簡単な仕事とコピー取りとお茶くみしか与えられなかったが、今では女性もバリバリ仕事をこなす人が多くなってきているようだ。しかし、まだ忙しい女性にお茶くみを頼む男性が多いと聞いている。そんな時は、各自協力し合ってすればよいと思う。

男性も女性もお互いのできることを認め合い、協力する姿こそが男女平等参画社会の姿である。自分の長所を生かし、相手の短所を補うことも必要だ。性別で自分の可能性を狭められてしまうのは実にもったいないことだ。性別に関係なく、ありのままの自分を表現することで、社会も個人もよりよくなれるのではないかと思う。男女共同参画社会によって一人一人の可能性がより広がればさらによい世の中が作れるはずだ。

編集後記

「にぎやか」の取材を通して、性別や立場に関わらず、「その人らしさ」を認め合うことで、お互いが生きやすくなるのではないかと感じました。“共存・共生”の精神がこれからの社会にますます必要になると思います。(Y.K)

編集委員の仕事を通して、年代の違う多くの方々からお話を伺い、考える機会をもつことができたことは、私にとって大きな収穫でした。皆様に感謝いたします。富山市民一人一人の「幸福度」が、さらに上がりますようお願いしています。(M.M)

この2年間でさまざまな場所に行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな生き方を学ぶことが出来ました。学生のうちに、普段あまり意識することのなかった「男女共同参画社会」について考えることが出来たのは非常に良い経験だったと思います。(H.H)

「あいのかぜ」新・編集委員を募集します

募集資格／市内在住の20歳以上で、平成27年度・28年度の2年間、編集委員として活動し、平日の日中に開催される編集会議に常時参加できる方

※「あいのかぜ」は年2回発行。1回の発行につき編集会議は5回程度。

仕事内容／企画、取材、原稿作成、レイアウトなど

任期／委嘱した日から平成29年3月31日まで

募集人員／3人(面接により選考)

応募方法／4月24日(金)までに、所定の応募用紙を、郵送、FAX、Eメールまたは直接、男女参画・ボランティア課(〒930-8510 宛先の住所地不要:市役所3階)へ。

※応募用紙は、男女参画・ボランティア課、男女共同参画推進センター、各総合行政センター市民生活課・市民福祉課にあります。(Eメールで応募の方は応募用紙のデータを送信しますので、ご連絡ください。)

☎男女参画・ボランティア課 443-2051 FAX443-2176

✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp